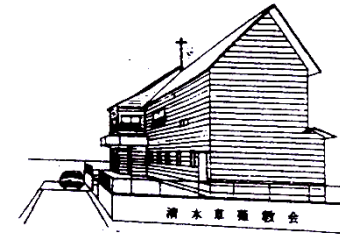


《今朝の聖書から》

教会の礼拝では、このクリスマスに向けてみ言葉から、いくつかのキーワードについて学びました。一つ目は、周りの環境が全く以前と同じなのに“変化への期待を与えられる時”ということでした。クリスマスは私たちに変わらざることを求めているのです。たくさんの文学者も、この変わるということに心を巡らして作品を残しています。クリスマスの文学作品のすべてが、と言っていいと思いますが、変わることの素晴らしさを示しているのです。二つ目は、神様が分かるということです。羊飼いたちは探し当てました。そして礼拝を捧げました（ルカ 2：16）。また、東方の博士たちも星の導きによって救い主の誕生がわかりました（マタイ 2：11）。同じようにシメオンも、出会ったときに、この方こそ“救い主”であることがわかりました（ルカ 2：30）。私たちも、かつて救い主が、いま私に出会ってくださると分かり、洗礼を受けたことを思い出しましょう。三つ目に私たちが理解したことは、栄光の神が、その栄光をみじんも失うことなく、人の低さにまで低くなられたということでした。学んだことのない者には分かり易く、学んだ経験を持つ者には、権威ある者のように、世界中の言葉で、時代を超えて語ってくださっているのだということでした。人を母とし、子供として私たちのところにおいでになったわけです。そして成長されました。それは神のためではなく、私たちが、神様と人格的な関わりを持つために、神様がそのような方法をとられたということです。1月の6日には“公現日（栄光祭）”を迎えます。この、降誕節が新しい神様の導きを知る時であったなら、とても幸せです。いつもの繰り返しで疲れるだけでした、としか言えなかったら、今からでもクリスマスを記念したいものです。救いを知るまで私たちのすべては、クリスマスを、“私には何の関係もないもの”と思って、無視して問題にしなかったか、“クリスマスを祝うことのできる人々は幸せだ、私のところにはサンタクロースもやっては来ない”と思って、あこがれてはいても、寂しい時だったに違いありません。私たちが、たといどのように思ったにせよ、神様の方からやって来てくださったというわけです。大いに神様の救いを知る時として今年も、降誕節を過ごすことができますように願いまししょう。今朝は、すべてをつかさどる法則のように神の栄光があったにもかかわらず、この神様が、人によって証しされ、救いのために、世界に降られたことを学びましょう。

週報

2007年 12月 30日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。

使徒行伝 16：31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9：00
礼拝式	毎日曜日	午前 10：30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7：00
エステル会の会	毎水曜日	午前 10：30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7：00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道 3丁目 2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸